

## 2014 後期 7 古典籍展観大入札会

はしぐち こうのすけ  
橋口 侯之介

## 古い本が残る国

日本は世界的に見ても、100年200年以上前の書物がよく残されている国である。

平安時代からずっと書物は「残して伝えるもの」という意識が強かった。そのため、千年持つ紙（変色はするが、化学的に劣化はしない）をつくりだし、墨は変色もしない。その上、和装の造本はメンテナンスが容易である。この遺産を伝えることは、現代人の重要な役割である。和本を入手した者は「一時のお預かり物」という意識が必要。古本屋もその一端を担うつもりである。

しかし、近代以降の洋本（洋装でパルプから作る洋紙に活版印刷の書籍）は一部で劣化が始まっている。百年単位で考えて本をつくる発想はないので、これからどうなるか……。いっそ近代以降の本は電子化したほうが「持つ」かもしれない。

## 中世の保存

中世まで、書物は主として寺院や公家などで保管されてきた。とくに寺院の役割は大きく、仏教書だけでなく、歴史や文学、中国の古典（漢籍）、あるいは文書まで幅広く残してきた。一人で持てる大きさの木箱（櫃）に入れておき、もし火事や地震があったら、寺の人達がそれを持って避難したという。

## 江戸の古書市場

江戸時代に入ると、本の伝存は個人の蔵書家に移った。集めるだけでなく、周囲の人に開放した。また大名も藩校などの教育機関を設けてその図書館の役割を果たした。それらの仲介役が本屋である。

本屋は出版や新刊書の販売だけでなく、古書として流通させる業務も重要視してきた。その中心は本屋仲間が公的に認めた古書市場である。市場を開設するのは本屋の中から出てきて「市屋」ともいった。そこには多くの本屋が集まるので、仲間の伝達事項や奉行所からの達しなどをおこなう場でもあった。

参加できるのは、本屋仲間に入っている店と、許可された「売り子」などと呼ばれたフリーの人たちである。この売り子は「セドリ」ともいわれて近代まで続いた。各本屋や売り子たちが顧客などから仕入れてきた本が市場に出され、主として専門性の高い本屋が買った。

市場の役割は、本を売りたい者と買いたい者が競るのを仲介する場である。競るのは、買いたい者多いと高くなり、逆だと安くなる。自然に相場ができ、売る方も安すぎないように最低値を設定できる。

魚市場などで声を出しておこなう競りに対して、紙などに価格を書いて市場運営者に判定してもらう方法を入札（いれふだ）という。今は〈にゅうさつ〉という。

## 現代の古書市場

現代は都道府県単位で「古書組合」があって、自主的に運営されている。小説・三上延『ピブリア古書堂の事件簿』に出てくる市場は神奈川の古書組合（横浜にある）が舞台。どこかの組合に入っている店は全国どこの市場にも参加できる。東京は神田にある「東京古書会館」で行われ、毎日開かれている。月曜日はサブカルチャー的な大衆本、水曜日は資料や社会科学、木曜日は一般書、金曜日が近代資料や文学書を専門にする「明治古典会」となっている。

火曜日の市が「東京古典会」という名称で、和本を専門に扱う。全国の古書店から送られてくる和本が毎日大量にさばかれる。点数にして500点前後、冊数にしたらその数倍になる。

## 古典籍大入札会

奈良時代から明治期までの長い時期の本がある。その中から最低価格10万円以上と想定される本を集めて年に一回お祭りに開催されるのが「古典籍展観大入札会」である。今年で103年目を迎える伝統の催しである。

東京古典会  
http://www.koten-kaigi.jp/

平成26年度

大入札会 展観 古典籍

日本の文化 世界の文化 古典籍最高の舞台へ

展観（一般公開） 入場無料

11月14日(金) 10:00-18:00

15日(土) 10:00-16:30

大入札会（全古書店加盟店のみの参加）

11月16日(日)・17日(月)

会場 東京古書会館  
東京都千代田区麹町小塚町3-22  
問合せ 東京古典会 TEL. 03-5293-0167

ご相談は当店へ

およそ2000点が今年も出る。その目録もつくられ、全点が会場で展示される。その展示は誰でも見ることができる。文化財的な高価な本でも、実際に手にとって触ることすらできる。入札は古書業者だけで行われるので、欲しい本があるときは、古書組合に入っている店に依頼して代行入札してもらう仕組み。オークション会社のそれとはそこが異なる。

<http://www.koten-kai.jp/catalog/information.php?siID=23>

展覧日時：2014年11月14日(金)15日(土)AM10:00-1800(15日は16:30まで)  
 場所:東京古書会館(千代田区神田小川町3-22)

### 入札方法

入札する方法の基本は昔からそう変わらない。現代では、出品された本ごとに入札封筒が置かれ、買いたい本があったら紙に値段と店名を書いて(札という)、その封筒に入れる。時間がくると順に係によって封筒があけられ、最も高い札をいれた店に落札する。

出品される本は、相場がしっかりしていて、買い手が多く見込まれる本は一点で単独入札されるが、多くは関連する本を集めて一括して入札される。会場は330㎡ほどの部屋に並べられた机や壁面にいったんすべて展示される。さらに和人はコの字型に配置された机に業者が坐り、そこで本が回され、じっくり見て入札される。落札したものは、係によって『富嶽百景』は〇〇万円で△書店さん』などとアナウンスされる。



古書の入札の特殊なところは、競りの要素を紙にも合わせもった方法がとられることだ。1万円以上 3枚札 10万円以上4枚札 100万円以上6枚札 という規定があり、一人一枚のみの参加だが、一枚の中に複数の価格が書けて、その複数の価格で比較されて最も高い価格に落札する。

333,000	159,990	409,990	250,000
289,000	137,770	351,990	189,000
250,000	126,000	301,990	160,000
219,000	105,000	269,990	130,000
一番堂	ビブリア	成蹊堂書店	吉祥寺屋

## 2014年の目玉は？

1 『古今和歌集』 鎌倉時代中期写本など

奈良絵本 187 『和泉式部』、189 『法妙童子』 (お伽草子)、191 『かざしの姫』 (お伽草子) などいくつか

絵巻 174 『源氏物語 榊』、194 『酒飯論絵巻』 (お伽草子)、  
202,203 『百鬼夜行絵巻』、323 『韃靼人狩獵絵巻』 など

498 『百万塔 及び陀羅尼経』 奈良時代 日本最古の印刷物

江戸時代の写本 173 『源氏物語』 青表紙 揃い 蒔絵箱入、223 『改元部類記』

江戸時代の版本 517 『白氏文集』 (古活字版)、731 『京雀』、757 『麦生子』

唐本 1070 『祖英集』 (宋版)、936 『草書韻会』 (金版か)、1072 『東坡先生詩』 (元版)  
1205 『蘭亭図巻』 (明版)

古文書 1251 『東大寺文書』 (平安時代から)

近代資料 1522 『柳原白蓮・宮崎龍介書簡集』 テレビで話題の人物  
1876 『ちりめん本 ハーン昔話集』